

○事業所名	福岡市立心身障がい福祉センター ありんこ園		
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和8年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和8年1月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	超早期から就学まで、難聴児・家族への一貫した専門的な支援が行えること。	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚管理、補聴、福祉手続き、発達段階に応じた療育・発達支援、保護者支援、難聴に関する情報提供、進路支援と、質の高い支援を包括的に行えるような体制の維持と専門性の向上。 ・保護者が難聴児の子育てに前向きに取り組めるよう、保護者同士が繋がる機会の提供や難聴に関する学習会、個別面談の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育の質の維持・向上に向けた人材育成。 ・適時適切な情報提供のため、職員間の情報共有とマニュアル化。 ・保護者の多様なニーズを捉え、それに応じた支援の提供を柔軟に検討する。
2	多職種が連携し、総合的な発達支援が行えること。	<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚士、保育士、児童指導員、発達相談員、耳鼻科医、相談支援員が密に情報共有しながら専門性を持ち寄ることで、利用児、保護者それぞれに合わせた支援を行う。 ・聴覚・言語面のみでなく、情緒、社会性を含めた全体発達を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に超早期に来所する0歳児に向けて、保護者の心理面、育児面、情報提供、保護者同士の繋がり等、多職種が連携して支援を充実させる。
3	幼稚園・保育園等と連携しながら、生活の場である地域への支援が行えること。	<ul style="list-style-type: none"> ・園訪問、幼稚園・保育園の先生向けの学習会（難聴基礎講座、補聴器・難聴体験、園での配慮など）、公開療育を行い、地域での支援の質の向上に努めている。 ・早期入園する児の増加に伴い、園訪問の対象を1歳児以上に拡大した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児から入園する児もおり、サポートブックの作成等、支援を充実させる。 ・療育体制を維持しながら、希望者には園訪問の回数を増加できるような仕組みを検討する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	高い専門性の維持・向上と人材育成。	<ul style="list-style-type: none"> ・難聴児療育に関する専門知識や、必要とされる技術は膨大であり、人材の育成に時間を要する。 ・職員の異動・産休が重なり、療育の質を維持しつつ、経験を継承し、専門性の向上を図るためには、時間を確保し、そのための体制を調整しながら、意識的に人材を育成することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJT、療育前後の打ち合わせや振り返り、療育場面のビデオを用いた研修など、実践的な内容で専門性の向上を図る。また同職種間で定期的にミーティングを持ち、外部講師も招きながら研修を行い、専門性の底上げを図る。 ・事務作業の効率化を図り、研修時間を捻出するよう努める。
2	市外を含め広域にわたる在籍児の居住分布や、共働き家庭増加に伴う多様なニーズへの対応。	<ul style="list-style-type: none"> ・通園距離の長さや就労により頻度の高い通園が困難であったり、家庭での関わりの時間の確保が難しい家庭が増加しており、多様化したニーズに合わせた療育の提供を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の集団療育、個別療育に加え、保護者学習会や小集団での低頻度の療育など、ニーズに合わせた療育を提供できるように検討を進める。 ・療育体制を維持しながら、希望者には日々の生活の場である園の支援力向上のために園訪問の回数を増加できるような仕組みを検討する。
3			